

Title	アメリカ憲法と日本国憲法：私にとってのアメリカ憲法（学）（共同研究報告：憲法研究）
Author(s)	豊川, 慎
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-No.5 : 14-15
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=2887
Rights	

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

【憲法研究】
アメリカ憲法と日本国憲法
—私にとってのアメリカ憲法(学)—

2011年2月21日(月)、聖学院本部新館2階において、2010年度第10回「憲法」研究会が開催された。司法制度改革審議会会長などを歴任された憲法学者の佐藤幸治氏(京都大学名誉教授)が「アメリカ憲法と日本国憲法—私にとってのアメリカ憲法(学)—」と題する発題を行った(研究会出席者は19名)。以下、発題の概要を記す。

初めに佐藤氏は自身がアメリカ憲法に関心を抱いた理由として、日本国憲法の解釈論を論じる際にその基礎としてアメリカ憲法に関心を持ったことを述べられ、「法(学)としての憲法(学)」へ



佐藤幸治 京都大学名誉教授

の思いがあったことを話された。憲法という視点からみた「アメリカ革命」の意味や「マーベリー対マディソン判決」(1803年)の意味などアメリカ憲法の歴史を述べられた後、日本にとってのアメリカ憲法に関して、特に明治維新时期と明治憲法について、そして日本国憲法とその後の展開を中心に話をされた。

佐藤氏は20世紀末の日本の置かれた状況として、冷戦構造の終焉、グローバリゼーションの顕在化、そして高度経済成長(バブル経済)の終焉の三点を挙げ、そのような中でどのように「国のかたち」の再構築を試みて行くのかということが憲法学にとっても重要な問題であることを指摘された。特に司法改革に関連して、司法を国民一般のレベルに引き戻す必要性、つまり国民の日常性に役立つあり方という観点からの司法改革の必要性や司法の重要性を国民によく理解してもらうことの必要性を強調された。そして佐藤氏は憲法13条を憲法の価値体系の基礎に据え、そこに示されている人権の基礎たる「人格的自律権」(自己決定権)の考え方を中核にしなが、それを守っていくためには憲法がそのためのものであるということが認識され位置づけられる必要があることを説かれた。憲法は生活のためのものであり、日常の具体的な生活との深い関わりを持っているのだという憲法の「物語性」についての話を伺った。発題の後には人権の淵源をめぐる議論など活発な質疑応答がなされ、実り多い研究討議の時となった。

(文責:豊川慎 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科 博士後期課程)
(2011年2月21日、聖学院本部新館2階)